Book INFORMATION

中央公民館
図書室からの
お知らせです

ほん大好き

中央公民館図書室☎（42）7200

今月 新しく 入りました。

※１月の新刊は、５日（木）からの貸出となります。

一般の本

・レペゼン母（著＝宇野 碧）
・首取物語（著＝諏内えみ）
・レッドゾーン（著＝夏川草介）

子どもの本

・千に染める古の色（著＝久保田 香里）
・ジェニーのぼうし（作＝エズラ・ジャック・キーツ）
・ぼくのバス（作・絵＝バイロン・バートン）

子どものお話の会

中央公民館内のこどものとしょしつで、子どもを対象としたお話の会を行います。親子で聞きに来てみませんか。

● **とき**　1月 21 日（土）午前 11 時から
● **ところ**　中央公民館（こどものとしょしつ）
● **申込み**　事前申込みが必要。受付は１月 10 日（火）から 20 日（金）まで（土・日は除く）。時間は平日の午前９時から午後５時まで

※参加費無料（先着 15 人）
※新型コロナウイルス感染症により日程が変更または中止になる場合があります。

● **問い合わせ**　中央公民館まで

中でもこの本が オススメ です。

キリンのひづめ、ヒトの指 ―比べてわかる生き物の進化

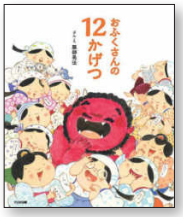
著＝郡司 芽久

見た目はまったく違うけれど、じつは骨格の構造や赤ちゃんの育て方など共通点も多いヒトとキリン。似ている部分に注目すると、複雑な進化の仕組みを理解しやすくなる!!

おふくさんの 12 かげつ

文・絵＝服部 美法

むつきさん、やよいちゃん、しわすちゃんなどの 12 か月の名前が付いたおふくさんたちが、定番の行事や風物詩・旧暦の由来などを紹介します！絵本を読みながら、12 か月の色々なことが楽しめる行事絵本です。



広がる本だな

本は知識を深めるだけでなく、人と人とのつながりを広げてくれます。新たな本との出会いは新たな人との出会いの始まり。広がる本だなでは、新たな本との出会いの場として、毎月おすすめの本を2冊紹介します。今月の紹介者は金子美代子さんです。

和ろうそくは、つなぐ

作＝大西暢夫

モノの命の繋がりに熱い思いの大西さんが和ろうそくが出来る過程をたどって９つの県をまたぎ、12の職人さんとつながります。もったいないの精神が根付いているこの国。なにひとつ無駄にすることなく脈々と受けついできた、壮大な職人さんたちの仕事。石油から取れるパラフィンが原料の安価なろうそく。なじみの薄い和ろうそくのあたたかい揺らぐ炎を見つめて、今一度ハゼの実から取れる蠟からはじまる旅をたどっていきます。モノを最後まで無駄なく使いきる感慨深い和ろうそくの本です。

しんかんせんのひみつずかん

絵＝溝口イタル

鉄道ファンの子どもに限らず大人も秘密というものは知りたくなる。夢の超特急と呼ばれ最初に走ったのは０系のだんご鼻。１００系のシャークノーズ、５００系のカワセミのくちばし、７００系のカモノハシの唇、外観から見分けるのに役立つ情報。

子どもが読む本として、どんどん進化を続ける新幹線の秘密の掲載量が多すぎず、読みやすい。新幹線車両基地に行って本物と見比べると旅に出たくなるでしょう。

／開館時間は午前９時から午後５時まで（１階ロビー・返却窓口は午後９時 30 分まで）。
／１月の休館日は、１日（日）から４日（水）です。／返却期限が過ぎている本は、至急ご返却ください。

鞍寿の里スタッフの
調子はいかが？
くらて病院☎（42）1231

鞍寿の里スタッフからの健康アドバイスです

Health ADVICE

介護老人保健施設（老健）とはどんな施設？

「介護老人保健施設（老健）」は、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、在宅への復帰を目指すために、医師による医学的管理の下、看護・介護といったケアはもとより、リハビリテーションや栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供する施設です。

今回は入所と通所（デイケア）に分けてお話します。

入所について説明します。

アドバイザー

吉村利枝
よしむらりえ
昭和62年筑豊看護専門学校卒業。昭和63年4月より鞍手町立病院勤務。平成30年4月より鞍寿の里看護師長。

≪入所基準≫

老健を利用できるのは、介護保険法による被保険者で要介護認定を受けた人のうち、病状が安定していて入院治療の必要がない「要介護1」以上の人です。医師の常駐や、看護師による24時間体制での管理が行われていて、医療依存度の高い人でも安心して入所することができます。

≪メリット≫

①最大のメリットは、リハビリサービスの質の高さ
専門的な資格を持つスタッフが指導を行います。
②医師が常勤、看護スタッフも一定数勤務している
看護師については夜間の常駐が義務付けられているわけではありませんが、24時間交代制で常駐しているところが多いため、経管栄養のような本格的な医療措置に対応できます。
③有料老人ホームなどに比べると費用が安い

≪費用負担≫

利用者負担は、原則として保険給付の対象となるサービスにかかった費用の1割から3割です（収入により異なります。）。介護度、施設の設備や職員体制、施設基準などでも異なりますが概ね月額13万円です。

≪デメリット≫

①生活支援サービスやレクリエーションがやや少ない
②入居期間は原則3か月
3か月ごとを目安に、リハビリでの改善や回復が見られたか、施設の継続は必要かといった審査が入ります。審査の結果、回復したと判断されると退所となります。
③内服薬が制限される場合がある

施設利用を考える場合、利用者、家族の目的に合った施設を選ぶことをご提案します。ケアマネジャーに相談することも大切です。

通所についてよくある質問にお答えします。

アドバイザー

田村昭美
たむらあきみ
平成4年鞍手町立病院勤務。透析、内科、外科、連携室、訪問看護を経て、現在、介護老人保健施設鞍寿の里通所リハビリテーション勤務。

≪Q1. デイケアとは？≫

通所リハビリテーションとも言われ、自宅から施設に通って、リハビリ、入浴、健康チェック、レクリエーション等のサービスを受ける介護サービスの1つです。

≪Q2. デイケアとデイサービスの違いは？≫

どちらも身体・生活機能の維持や向上、清潔保持、生活リズムの安定、家族負担の軽減等を目的としています。大きな違いは、デイケアには医師とリハビリ専門職が必ず在籍していることです。

≪Q3. デイケアとデイサービスどちらがいい？≫

デイケアは医療ケアに特化しており、その分、利用料金は高く設定されています。療養・退院後の機能回復を希望する人に向いています。一方、デイサービスは介護に特化しています。デイケアより施設が多く、利用料金も安く設定されています。食事や入浴など日常生活を優先したい人におすすめです。どちらも利用する場合は、要介護認定を受けていることが条件です。